



樹里安だより

ジュリアン

2009年 3 月
Vol. 25



— 安行の名所 (その12) —

西 光 院 《川口市戸塚2-6-29》

真言宗豊山派の寺院で、天正元年(1573年)に入寂した叡雅の開山と伝えられる。開基は太田氏房の家臣山崎安信。境内には、薬師如来を祀る三間方形造りの薬師堂がある。毎月8日に薬師講が催される。また、六角堂弁才天堂は武州七福神の一つである。明治7年(1874年)から明治45年(1912年)まで戸塚の小学校として使われた。

川口市保存樹木を訪ねて（その25）

全棟寺の イチョウ (川口市東本郷868)

イチョウはたいへん身近な樹木である。秋の黄葉と銀杏は懐かしく感じる人も多いのではない。東京都の木としてもよく知られ、公園や街路樹にイチョウが利用されている。この木には、公孫樹という別名がある。これは、公の時代に植えたものが孫の時代になって初めて実を食せるということから出たと言われている。

また、全国に巨木も多く、日本伝来の年との矛盾もあるが、弘法大師空海が植えたと伝えられるものも多い。中国大陸が原産だが、日本の気候、風土とピッタリのようで全国でも名木が多い。

今回は、東本郷の全棟寺に素晴らしいイチョウがあると聞き、心を躍らせながら訪ねてみた。このお寺は、1473年に開山され、徳川家康に関する言い伝えなどもある。山門脇の駐車スペースから入ると一目ですぐにそれとわかるイチョウが見えた。溜息が出るほどスマートで美しい樹形で、デジタルカメラのフレームを通して、この美しさを伝えられないと、逆に申し訳ないと思わせるほどだ。このお寺の境内には、モミジ・チャボヒバ・マツなどの様々な植物がきれいに整えられている。それらの植物をまとめあげるかのように、境内の中心として存在している。たいへん樹勢が良く、健康そのもので、元気そうだ。

お寺の前の道路(主要地方道 さいたま・草加線)を渡り、外から見ると、イチョウと仏閣、その向こうに見える色づいた斜面林は、1枚の絵のように美しい。これだけの美しいイチョウがあまり知られていないのは、残念だ。近隣の方には、是非一度ご覧になっていたきたい。



イチョウ (イチョウ科イチョウ属)

- 学名：Ginkgo biloba L. 和名：イチョウ 英名：Ginkgo
- 分布 中国原産
- 高さ 45m 幹周り5mぐらいになる落葉針葉高木
- 用途 公園樹 街路樹 盆栽 碁盤 将棋盤 神社・仏閣境内に植栽
- 陽樹
- 4月に開花 雌雄異株 生長は速い。萌芽力は大。刈り込みに耐える移植は容易。煙害に強い。防火力がある。
- 樹皮は灰色で厚く、縦に割れ目ができる
葉は扇形で中央に切れ込みがある。秋には美しく黄葉する。種子は球形で9月頃成熟。
- 種子植物であるイチョウに精子があることを東京大学の平瀬作五郎が世界で初めて発見した。現在も発見のもととなった株が東京大学小石川植物園に残っている。
- イチョウの実、銀杏(ギンナン)は、秋に独特の香りを放つ。茶碗蒸しや酒の肴などに利用される。木自体を銀杏と書くこともあり、素直に呼んだ場合のギンチョウという読み方を西洋人が聞こえたまま書いたもの(Ginkyo)が誤記され、英名のGinkgoになったといわれている。



全棟寺の保存樹木

樹 種	科 名	指定年月日	指定番号	所 在	幹 周	樹 高
イチョウ	イチョウ科	H12.9.1	29	東本郷868	3.7m	22.0m



植物の文化（その12）

ヤマブキ

安行原の密蔵院の隣に位置する、安行原自然の森は、近隣の方々の憩いの場として親しまれていて、「安行・花とみどりを愛する会」の管理でいろいろな植物がきれいに整えられています。それらは、ニッコウキスゲ、シャガ、アジサイ、ハナショウブ、ユリなどですが、特にヤマブキは、春の花、秋の黄葉と1年に2回楽しませてくれます。

今回は、このヤマブキについて取り上げてみます。



春の安行原自然の森



秋の安行原自然の森

ヤマブキ

ヤマブキは、バラ科のヤマブキ属の落葉低木で、日本では、北海道から九州までのいたるところで見られます。現在では、各国で庭木として多く植栽されていますが、世界的には、日本と中国にしか原生分布していない一属一種の珍しい種類です。

万葉時代

ヤマブキは、万葉時代より賞で遊ばれることが多かった。その中でも橘諸兄(684年～757年)は、ヤマブキに魅了された代表的な人物です。諸兄は、天平時代に山城国井手の里、玉川のほとりに住み、庭園を中心に辺りを一重咲きのヤマブキで埋め尽くしたといわれています。花の季節になると堤が花いっぱいになり黄金色に染まったそうです。この観覧のため聖武天皇(701年～756年)が天平12年(740年)行幸され、その見事さとともに「井手の玉川」は山吹の名所として天下に名をなすようになったそうです。

また、ここで詠まれた詩歌は、とても多い。

駒とめて なほ水かはむ山吹の 花の露そふ井手の玉川

藤原 俊成

この名所は、後世まで続いたそうですが、戦災などで全滅しました。

太田道灌

太田道灌は、室町時代の武将で、上杉家の重臣でした。築城に優れ、江戸城をはじめ川越城、岩槻城などの埼玉県内の城を築いたことから馴染み深いと思われます。

この道灌と山吹には有名な故事があります。ある日、道灌は、鷹狩りに出掛けた途中、雨に降られました。そこで一軒の民家に立ち寄り、「蓑を貸してくれ」と申し出ました。しかし、出てきた娘・紅皿は、山吹の花の咲いた枝を折って渡しました。これに対して、道灌はたいへん怒り帰ってしまいました。

これは、紅皿が「後拾遺和歌集」にある兼明親王(914年～987年)の歌を引用したものでした。兼明親王が小倉に住んでいた時に、ある雨の日、蓑を借りに来た人に山吹の枝を折って渡し、その意味を問われ詠んだ歌といわれています。

七重八重は はな咲けども山吹の み(実)のひとつだになきぞかなしき

この歌の意味は、家が貧しくて蓑(みの)ひとつ持ち合わせがないという意味で、紅皿は道灌に、この歌の心を伝えたかったようです。

その後、道灌は、己の無知を恥じ、歌道に励み、紅皿を城に招き歌の友としたそうです。故事の場所は、豊島区高田周辺や荒川区三河島、埼玉県越生町などいろいろ説があります。



八重ヤマブキ



シロヤマブキ

ヤマブキ

Kerria japonica (L.) DC.

- バラ科ヤマブキ属
- 落葉広葉低木（高さは2mに達する）
- 花期：4～5月
- 原産地：日本 中国



昇進・栄転祝い

ニシキギ

ニシキギ科 ニシキギ属
(落葉広葉樹・低木・中庸樹)

「秋の紅葉は錦のごとし」から名前がついた由来によって、錦を飾る祝意をこめて記念樹としたい。生花にもよく使われる紅葉の美しい木。清少納言が枕草子で「花の木ならぬはそばの木」と、花の木以外で美しい木として称賛している。「そばの木」はニシキギの古称。



1. 特徴

開花期 4～5月、結実期 10～11月。
生長は早い。変種にコマユミがある。

2. 植えるときの注意

時期 11～12月、2～3月。
場所 西日の当たらない場所を選ぶ。
乾燥を嫌う。

3. 管理のポイント

ミノムシがついたら手で早めに取り去る。



《他の木》



エンジュ

落葉広葉樹
高木・陽樹



キンカン

常緑広葉樹
低木・陽樹



ツバキ

常緑広葉樹
小高木～高木・中庸樹



ネムノキ

落葉広葉樹
高木・陽樹



川口緑化センターの主なイベント結果報告

1 第6回 緑の学会・ふれあい講演会

平成21年1月31日(土)

都市農業や自然環境について参加者に考えていただくため、川口市農家組合連絡協議会と共催で講演会を開催しました。講師には、医学博士であり登山家でもある、今井通子氏を迎え、「地球からのメッセージ・自然と共に生きる」というテーマで、自らの体験や研究に基づき環境問題や緑の重要性等について講演していただきました。



2 根巻き技術講習会

平成21年2月5日(木)

技術伝承、後継者育成のため、安行の緑化産業の伝統技術の一つである、根巻き技術の講習会を開催しました。根巻きは樹木を移植する際に掘りとった根に付いている土が落ちないように根鉢を藁・縄などで巻く技術で、参加者は藁を利用し、縄を縦にかけのみかん巻きや、縄だけで斜め、横にかけの樽巻きを学びました。



3 接ぎ木技術講習会

平成21年2月18日(水)

技術伝承、後継者育成のため、植物の繁殖技術の一つである接ぎ木の講習会を開催しました。接ぎ木は、植物の一部(接ぎ穂)を近縁植物に組織融合を図り、独立した植物体を養成する技術で、サクラ、バラなどを利用した接ぎ木技術を参加者は学びました。



4 第48回 川口市 花の文化展

平成21年2月27日(金)～3月1日(日)

川口市特産花き園芸の生産の高度化と経営の近代化を促し、消費の助長を図るとともに「花と緑」の総合的な紹介・宣伝を目的として「第48回 川口市 花の文化展」を開催しました。特産の切り花、枝物、鉢花、川口市の花テッポウユリ、地元の材料を使用した生け花を展示しました。また、先着50名様に桃の花を配布し、好評を博しました。





仕立ての種類

1. アーチ仕立て

門のような、アーチ形に組んだ骨組みに、主に、つる性植物を這わせる仕立て方です。バラなどの観賞用植物を仕立てるのに用いられます。

2. あんどん仕立て

数本の支柱に、ワイヤーなどで作った輪を水平に固定し、植物を絡ませて栽培する仕立て方です。主にアサガオ、クレマチスなどのつる性植物の栽培に多く利用されます。あんどんとは、竹や木材で作った骨組みに、紙を貼り、灯りをともすもので、そこからきたものといわれています。

3. フェンス仕立て

フェンスを利用して植物を栽培する方法です。主にバラなどの栽培に用いられます。

4. スタンダード仕立て

主に木本植物の仕立て方で、大きな枝のない上部に、葉を茂らせ、球形に刈り込んだものです。主に観葉植物を仕立てるのに用いられます。

5. 玉づくり(玉仕立て)

樹木の仕立て方の一つで、全体を球形に仕立てます。主に、ツゲなどに用いられます。

6. トピアリー仕立て

樹木を円錐、円柱、動物や鳥の形に仕立てることをいいます。イヌツゲやゴールドクレストに用いられます。



川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」

発行日：平成21年3月1日

発行：財団法人 川口緑化センター

〒334-0058 川口市安行領家844-2

TEL 048-296-4021

ホームページ：<http://www.jurian.or.jp>

